うちだっ子

「感謝を胸に、いつか地元に恩返し」





先日、私の住む島田市（旧金谷町）地域の祭典が行われました。

私の子どもたちも幼い頃からお囃子や踊りの指導など、親ができなかったことを地域の方々が指導してくれました。練習後のお菓子やジュースを楽しみにしていたことも思い出されます。約束の時間になっても帰宅しない子や、危険な行為をする子どもたちには、時には厳しく愛情をもって接してくれていました。だからこそ、この時期になると、懐かしさを感じるのだと思います。

現在は、東京で商社勤務の長男ですが、幼い頃から地域のイベントに参加させてきて本当に良かったと思っています。同時に、我が子のように接してくれた地域の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。　文責（相田）



『先日、私の地元で地域のお祭りが開催されました。

家族からも祭りの風景や動画が送られてきました。

街に響く賑やかなお囃子の音や活気あふれる雰囲気を感じると、幼い頃に地元のお祭りで過ごした楽しかった日々が、思い出されます。お祭りの日々の記憶をたどるたびに私を温かく育んでくれた地元の優しさやこれまで関わってくださった地域の方々への感謝の気持ちが、自然と湧き上がってきます。

現在は地元を離れ、都会の荒波のなかで、自分と向き合う日々を過ごしています。新規開拓に挑戦し、未知の経験を積める喜びがある一方で、時には思うようにいかない壁にぶつかったり、自分の未熟さを痛感して落ち込んだりすることもあります。そうした苦い経験も自分を力強く成長させてくれる貴重な機会なのだと、目の前にある仕事や学びに真摯に向き合っていきたいと思っています。

「いつか地元に恩返ししたい。」いつか自分を育ててくれた大好きな地元（静岡県）に、何らかの形で恩返しができるような「人財」になることが目標です。

今すぐに大きな成果を出せるわけではありませんが、いつか自分が身につけた知識や経験、スキルを地元や地域社会のために還元できるようになりたい。そんな未来を目指して、一日一日を大切に、歩みを進めていきます。

おわりに、懐かしい地元のお祭りの便りに触れたことで、あたたかな思い出とともに自分の原点やこれから目指していきたい姿について改めて見つめ直すことができました。 ～長男のブログより～